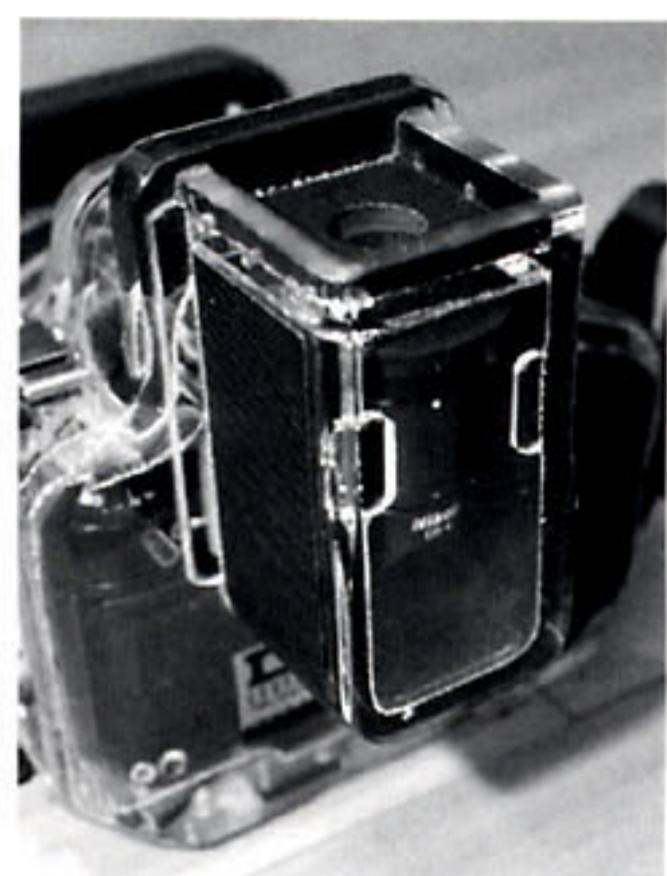


ニコンF4と17~35mm専用の特注ハウジング



川ガキ写真はこんな風に撮影される



アングルファインダーとアクションファインダーも取り付けられる

この4点だけが使いやすく操作できればいいと伝えました」

村山さんの希望を聞いて、水元さんは作業に取りかかった。しかし、問題があった。ハウジングに入れるニコンのF4は、仕事でも使っているために水元さんに預けることができない。そこで、仕事が空くと数日水元さんに預け、仕事が入ると、取りにいくという繰り返しが何度か続いた。

「僕は、ニコンF4でないとしっくりと来ないんですよ。スイッチを入れなくても、シャッター速度や絞りの位置が一目でわかる。F80を買って試してみたのですが、使いにくくてダメでしたね。レンズは、17~35mm専用にしました」

村山さんのハウジングには、軽いこと以外にもいくつかの工夫がある。

「アングルファインダーをつけられるようにしました。水中で泳ぎながらふつうにファインダーをのぞくのは体を起こさなければならず、実はむづかしいのです。そこで、アングルファインダーをつければ、下を向いたまま自然とファインダーが覗けます。これは、市販のハウジングにはない機能ですが、お薦めですよ」

さらに、川ガキ撮影のための村山さんならではの、もう1つ工夫がある。

「半水面写真をきれいに撮るためのドームポートと、通常の写真を撮るための平らなポートを付け替えられるようになっています。こうすることで、撮影の可能性がぐんと広がります。どうせ作ってもらうのだからと、徹底的に自分が使いやすいようにオーダーしました。水元さんは、かなりたいへんだったと思いますよ」

けっきょく、製作に2カ月ほどかかり完成した。アクリルを強度がもつ、ぎりぎりまで薄くして通常のハウジングよりかなり軽く仕上がっている。

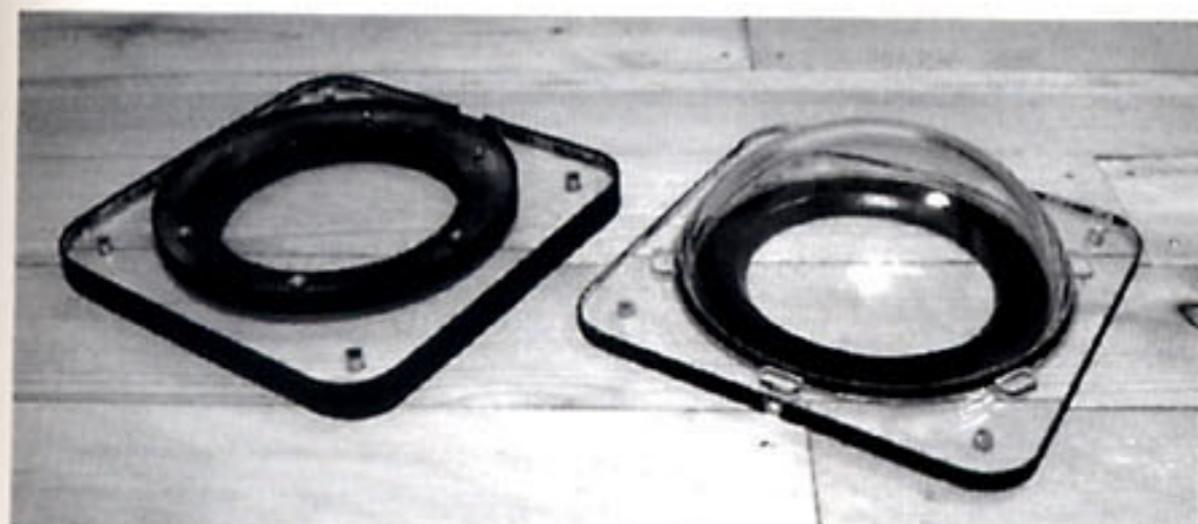
「とても満足しています。ダイバーが水中写真を撮るのと、僕の川ガキの撮り方は、だいぶ違うので、やはりオーダーして正解でしたね。水元さんが、僕のわがままをこんなにすべて実現してくれるとは、思ってませんでした。使い心地は、もう最高です。川ガキにも大受けですね。カメラに関心をもって近づいてきたら、もうこっちのものです」

ただし、取り扱いにはとても神経を使うそうだ。何せハウジングは、アクリル製。落とせば一発で割れてしまう。

「僕は、ふだん機材はそんなに扱わないほうなのですが、これだけは特別ですね。川でもいつも小わきに大事に抱えるようにして、持ち歩いています。川ガキとの間を結んでくれる大切な道具ですからね」

村山さんにとって道具は、自分の表現を実現させてくれるものであると同時に被写体とのコミュニケーションの手段でもある。これからもこのハウジングを通じて、さまざまな川ガキと遭遇し、川ガキのキラキラと輝いた姿を映し出すことだろう。村山さんと川ガキ、そしてハウジングとの付き合いは、さらに深まっていくに違いない。

(やまがた きよし：道具学会会員)



平ポートとドームポートは、ネジで付け替えられる